

*** 団結力

菅直人さん・・・トップとしての軽率な行動、人を魅了・統率できない胆力などから、東日本大震災の数日後から、私はこの人を首相とは呼ばず、こう呼ぶことにしている。

その彼は、先日都内で行われた(山口県の)高校の同窓会で、「私もなでしこジャパンに負けず、いくら得点されても逆転するために頑張り抜く。」と語ったと伝えられる。

ちょっと待っていただきたい。サッカーはルールの中で行われ、逆転は、決まっている制限時間内での出来事である。まして、“なでしこジャパン”を評価すべきはその「団結力」であり、“なでしこ”のメンバー自身もチームの優れている点をそのように評していた。逆転するかしないかは結果であって、本人が言うべき心構えではないのである。何をかいわんやである。

同じ場で、「私が野党のときは、こんなひどいことを言ったかなあ、と思うことを毎日言われている。」とも発言したとか……。ご本人が野党時代にどんな悪態をつき、体面だけの無責任発言を繰り返してきたかを引くまでもなく、品位も、腹も、何もない、具体性に欠けるこの情緒的な発言そのものが、かの人の体質そのものを物語っている。なにしろ、「首相を辞める。」と言いながら、「顔を見たくないなら法案を通せ。」とまでのたまわった御仁である。

どうか、国会という、法律すなわちルールをつくる立場を国民に付託された人間として、他の国会議員諸賢には、この反面教師を乗り越え、“なでしこジャパン”が示してくれた、最後までやり抜く体力・精神力、それぞれが全体を見通して個々の役割を全うする「団結力」に学び、まずは震災対策に邁進していただくことを期待したい。

話は変わるが、土木の仕事の魅力を語って下さった先人の見識を紹介したい。

学生時代に人生の方向を模索していたときにいただいた言葉であり、その要旨は以下のようなものであったと記憶している。

「土木の世界には最先端といえる科学技術はない。構造解析は機械理論の一般的な解であり、水の流れは流体物理の一端として表現されていることなどが土木理論の現状であり、いわゆる最先端を行く科学理論は必要とされていない(複雑に絡み合う自然現象は理論解で忠実に表現できるほど単純なものではないとの意)。輻輳する課題と固有のフィールドを対象に、様々な専門分野・プロの技術や経験をコーディネートして、ひとつの目的物や環境を創り上げて行くのが土木である。従って、一人でできることは限られているが、多様な分野の協力・結集、すなわち「団結力」こそが求められる。」

私にとっては、これからの人生の方向を決めるのに足るアドバイスであったし、一步を踏み出す動機としても十分なものであった。事実、その後の土木屋人生のなかで多様な人材(財)の組み合わせこそが良い成果、良い結果をもたらしてくれたと思っており、何より、利害関係者を含む関係するメンバーそれぞれが全体に通じ、かつ個々の分野、責任を全うしたことがその必須条件であった。

多様な価値観や環境のなかにあつて、調査、計画、設計、積算、施工、管理、そして、それらの調整・・・そのどれもが疎かにされてはいけない。まさに「団結力」の真価が発揮された結果が行政課題を解決に導き、良質の社会資本整備そのものに反映されたのであった。

寝ぼけ眼で実況を見た“なでしこジャパン”の戦い振りは、これからの日本、これからの土木界にとって最も重要なことがらを思い出させてくれたのではないだろうか。

20110705 MS生



ダムは多様な土木技術の集成体(初任地の十勝ダム)